



蒨雲

大口高校だより



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

大口中央中学校体験入学

7月5日、大口中央中学校の3年生が、大口高校の体験入学に参加してくれました。まず、生徒会役員がスライドを使って学校生活を紹介し、その後授業参観や施設見学を行いました。

後半は、大口高校生と一緒にグループごとに「高校生活をイメージしよう」というテーマで座談会を実施しました。感想文には、「初めて大口高校に来たが、明るい雰囲気ですごく楽しそう。」などとありました。



菱刈中学校高校出前授業

7月4日、菱刈中学校で「高校出前授業・説明会」が開かれました。まず、菱刈中学校出身で生徒会役員の宮脇海羽さんと吉永実央さんが学校紹介をし、そのあと永山裕都君、野平陸叶君、新富大悟君、脇岡桔平君が「総合的な探究の時間」で取り組んでいる金山ネギのPR活動について紹介しました。

憧れの先輩たちの登場に、盛り上がっていました。



学生合同茶会

7月14日、鹿児島市の宝山ホールで「第40回学生合同茶会」が開催され、茶道部8人が参加しました。

大勢の前で少し緊張気味の田中詩穂さんと森山莉汐さんでしたが、無事大役を果たしました。後見の中渡旭望君や2年生の部員たちも精一杯頑張りました。

3年生はこれで引退ですが、貴重な経験を積むことができました。



「総合的な探究の時間」最終発表会

7月11日、「総合的な探究の時間」の最終発表会が行われました。3年生全員が、これまで調査・研究や実践したことを1・2年生にも発表しました。

写真は旧山野線について発表する山下清正君。駅跡やトンネル跡も残っていることから、路線めぐりやスタンプラリー等の実施などの活用方法を提案しました。



進路ガイダンス

6月20日、全校生徒を対象に進路ガイダンスを開催しました。今年度は県内外から大学7校、短大2校、専門学校27校に参加していただき、それぞれ希望する学校の担当者から真剣に話を聞きました。

生徒の感想を見てみると、「県外の大学については情報も少なく、イメージがつかみにくかったが、今回大学の担当者から直接話を聞くことができたので、とてもためになった。」とありました。



性に関する教育講演会

7月16日、性に関する教育講演会を開催しました。1年生は「心と体の主人公になろう」、2年生は「高校生の性行動に伴う現状とリスク」、3年生は「性について考えよう～自分の意志でより良い選択を～」というテーマで、それぞれの専門の先生から講話をしていただきました。

1年生の脇岡櫻介君は、「実際に重りをつけてみて、妊婦さんの大変さを実感することができました。」と感想を述べていました。



救急救命講習会

夏休み初日の7月22日、伊佐湧水消防組合から3人の隊員を派遣していただき、生徒と職員と一緒に胸骨圧迫及びAEDの取扱いについて学びました。

1年生の松井杏奈さんは、「初めてAEDを使いましたが、実際に体験して自信ができました。AEDを必要とする人がいたら、積極的に行動したいです。」と決意を新たにしました。



郡山八幡神社六月灯

7月20日、郡山八幡神社の六月灯で、2年生の池ノ上奈槻さん、堀ノ内咲良さん、加治屋賢将君の3人を含むチームが出演し、ダイナミックなダンスを披露してくれました。

見学した隈元 新さんは、「500年の歴史と伝統のあるこの神社の境内で、現代の若者たちが躍動感溢れるパフォーマンスを行う姿に感動しました。」と感想を述べてくださいました。



令和6年度大口高校同窓会 総会及び懇親会のお知らせ

日時：令和6年8月16日(金)

受付:17:00, 総会:17:30, 懇親会:18:00

会場：大口グリーンホテル

※ 詳細は大口高校同窓会HPもしくはFacebookをご覧ください。

「大口高校ふるさと歴史講座」 要旨その1

大口高校では、昨年に引き続きPTA、同窓会と共催で「ふるさと歴史講座」を開催しました。伊佐市と伊佐市教育委員会、南九州郷土研究会、伊佐古文書研究会、大口城を愛する会の後援をいただき実現に至りましたが、今年は大口ロータリークラブ、伊佐ライオンズクラブ、伊佐市商工会、株式会社神蘭商店、株式会社新生から協賛を賜り、講座を運営することができました。

テーマにつきましては、昨年は考古学から伊佐の歴史を捉えるというものでしたが、今年は郷土の英雄「新納忠元」を切り口に、功績や人となりについてや彼が駆け抜けた戦国時代における南九州の様相や明治維新に至るまでの影響などを6人の研究者が様々な視点から講演しました。

募集定員は50人として、大口高校のHPや学校だより「茜雲」などでお知らせしたところ、受付開始の5月7日のうちに定員に達してしまい、その後はキャンセル待ちとなりましたが、全て含めると100人余の方が申し込んでくださいました。そのうち半数近くが昨年からのリピーターだったことから、本講座に対する高い評価と満足度を窺い知ることができました。

6月28日(金)の開講式と1回目の講座は、急遽、会場を体育館に変更して実施しました。アトラクションでは、「チームちむどん」の子供たちが新納忠元を題材とした演舞を披露し、大きな喝采を受けました。開講式では、主催者を代表して吉満庄司校長と出木場洋同窓会長が趣旨説明などを行い、後援の伊佐市教育委員会の春田浩志教育長と来賓の池畑知行県議会議員が挨拶をしてくださりました。

「大口高校ふるさと歴史講座」を申し込んだけれども既に定員に達していたという方や、新納忠元や郷土の歴史に関心はあるけど仕事の都合等で受講できなかった方などもたくさんおられたので、講座の要旨を数回にわたってご紹介していきます。



【第1回目】6月28日(金)18:00~20:00

講師：原口 泉 先生（志學館大学教授）

NHK大河ドラマ「篤姫」や「西郷どん」の時代考証を手がけるなど、鹿児島県民で知らない人はいないというくらい有名な原口先生をお呼びしました。吉満校長の鹿児島大学大学院時代の恩師ということもあり、お忙しい中に無理を言って引き受けていただきました。

なお、原口先生は平成22年に伊佐市文化会館で開催された「新納忠元公没後400年記念シンポジウム」において、基調講演をされています。



テーマ：「新納忠元とその時代」

私と伊佐とのつながりは、鹿児島大学に赴任した40年余前に遡ります。その頃、NHKで『かごしま歴史散歩』という番組を持っていた私は「大口黄金伝説」というタイトルで曾木発電所跡遺構や菱刈金山を取り上げました。その時、丁寧に案内をしてくださったのが、先ほど挨拶をされた大口高校同窓会長の出木場さんでした。その他にも、調査や撮影で何度も訪れましたが、皆さんによくしていただき、本当に感謝しています。本日は懐かしさでいっぱいです。

さて、昨年8月、「県民文化フェスタ in いさ2023」が伊佐市文化会館で開催されました。私も鹿児島県文化協会の会長として参加しましたが、伊佐の文化力の高さには驚かされました。本日の「ちむどん」の子供たちも素晴らしかったです。彼らの表現力に感動しました。その伊佐の地で、大口高校が市民を対象にこのような「ふるさと歴史講座」を開講されていることは特筆すべきことです。このような高校は、県下どこを探してもありません。

そろそろ本題に入ります。新納忠元は島津義久の下で九州各地の戦場で功績を挙げ、また大口地頭として薩摩の北境の守備に当たった勇猛な武将として知られています。これに加え、治水や水田開発など伊佐地方の農業基盤を整備したり、連歌や茶道を嗜む文化人の一面も持ち合わせていました。さらに、彼が作ったと言われる「二才咄格式定目」はその後の薩摩藩における郷中教育の基本とされるなど、その後の伊佐や薩摩藩に極めて大きな影響を与えた人物です。

幕末薩摩藩における天保改革は、調所広郷による財政改革が有名ですが、様々な農政改革も断行しています。調所の側近だった海老原清熙は、大口・菱刈郷の荒廃が激しく人口離散して田が草山になっている状況を何とかしなければならぬと考え、新納忠元の功績を顕彰することで、農業インフラの整備を進めようとした。その先頭に立ったのが郷土年寄の有村隼治や堀之内良眼坊で、川内川の開削工事や木崎溜池の構築などを行ったことはよく知られています。海老原は、新納家に命じて新納忠元の業績等をまとめ上げ、提出させました。これが「新納忠元勲功並家筋大概」（現在、東京大学史料編纂所が所蔵）で、私たちはこれを通して新納忠元の業績や人なりを知ることができます。なお、忠元神社の創建も顕彰事業の一環で、現在、神社のある忠元公園は伊佐市民の憩いの場となっています。

新納忠元の生涯において最も有名な場面は、天正15年曾木の天堂ヶ尾での豊臣秀吉との和睦会見です。主君島津義久の命で秀吉に降伏しますが、秀吉から「この上も我に敵対すべきや」と問われた忠元は、「何事も義久公の意のまま。義久公さえ思い立ち候はば、幾度でも敵対つかまつりべし。しかしながら、義久公かくの如く御和議いたしました上には一切を裏切るまじく、忠元また然り。」と答え、秀吉は忠元の主君に対する忠勇と豪胆さに感服したという話があります。席上、秀吉の側近で歌人の細川幽齋が発句した「口のあたりに松虫ぞ鳴く」という下の句に対し、「上髭をちんちろりんとひねり上げ」と即座に上の句を返歌するなど、歌道にも優れた教養人でした。

また、新納忠元が青少年育成のために定めたといわれる「二才咄格式定目」が薩摩藩における郷中教育の基本とされるなど、彼の死後も江戸時代を通して「薩摩武士のあるべき姿」として位置付けられていたことが分かります。

その新納忠元の生誕500年記念事業を伊佐市が行うことは、非常に意義深いものがあると思います。期待しています。